

パンク寸前の打瀬中学校をさらに“すし詰め化”する計画が進行中！

今年5月の時点で、打瀬中学校1、2年生の学級数はどちらも7クラス(1クラス38名)にもなっている。ところが千葉市教育委員会では「第二中学校」の建設予定はまったく念頭になく、さらにこの街の大家である企業庁は、「第二中学校」の建設予定地だった場所に何と「戸数500のマンション」を建てるという暴挙に出ようとしている。このままでは、打瀬の子ども達は「マンモすし詰め中学校」に通うことになる、これと並行してベイタウンの団地化も進行するだろう！

【金】

打瀬中学校は既にパンク寸前である。生徒数は3学年20学級で734名に達し、教職員の数も44名。もはや職員室も1か所では足りなくなっている。本来は生徒数に応じて増えるはずの理科室や調理室などの教科専用の教室を一般教室としてなんとか教室数を確保しているのが現状だ。放課後に中学校を訪れてみると、部活を行なっている生徒であふれかえっていた。校庭はサッカー部、野球部、陸上部が交代で、体育館もバレー、バスケ、卓球、バドミントンなどが交代で使っているので、場所を使えない部活の生徒は廊下や学校の周りでトレーニングをすることになる。では小学校の生徒数はというと、3校の合計ですでに2600名を超え、さらに増え続けているのが現状である。

ところが千葉市教育委員会にはベイタウンに新しい中学校を建設する計画はなく、パンク寸前の打瀬中学校を増築することで乗り切るつもりだ。教育委員会の説明では、千葉市では中学校を新設する時の基準として「31学級以上の状態がしばらく継続すること」としているが、打瀬地域の場合は最大ピーク時でも29学級止まりの予定なので、打瀬中学校の増築だけで対応したいとしている。

この説明には、実は大きな矛盾がある。

ベイタウンの小学校を卒業する生徒のほぼ1/3が毎年私立の中学に進学している。教育委員会は他の町に比べて異常ともいえるこの街の私立進学熱が今後も継続することを前提に生徒数を予測しているのである。教育委員会と企業庁の対応は、打瀬中学校にわざわざ劣悪な環境をつくり出して、私立への進学を誘導しているようなものである。さらに市教委の試算では、今後新しく建設されるマンション(H7街区はそのひとつ)入居者からの入学者は含まれていない。先に示したピーク時29学級という数字さえその根拠が揺らいでくる。簡単な話、第二中学校を新設したとして、将来の生徒数減少で施設が余ることを避けたいだけなのだ。

それならば設計の段階から、将来は中学校を福祉施設などへ転用するといった柔軟なアイデアをもち込めば良いように思えるが、教育委員会にはそのような将来を見越した発想がない。決

まった規格でしか建物をつくれぬ(と思いついでいる)から、将来必ず無駄になるのである。なんともバカげた話である。

マンション業者もベイタウンのマンション販売広告では、素晴らしい「小学校」の環境を必ずアピールしていた。その素晴らしい学校環境に魅かれてこの街へ転居してきた人たちにしてみれば、「中学校」の環境は詐欺のような話でしかない。

先日「H7街区建設計画説明会」には、未就学児の父兄も参加していた。中学校問題を遠い未来のものとして看過することはとてもできないと発言していたのが印象に残っている。

少し目線をH7街区に移した話をしてみたい。

H7街区(12番街、10番街、アバンセに囲まれた交通公園側の空地)建設計画との関連だ。たしかブエナテラーサとビーチテラスが売り出された時の宣伝文句に「ベイタウン内最後の分譲マンション」というのを見た記憶がある。複数の人に同じことを言われた。

ところが千葉県企業庁は本来「中学校建設予定地であったはずのH7街区」によりによって「ベイタウン内最大規模の巨大マンション街」を建設する予定である。

分かりやすく言うと、約400戸のミラリオよりも巨大な「500戸もの分譲マンションを屏風型に立てる」という計画なのである。

ベイタウン内にはここ以外にも空地が点在しているが、この調子では今後これらの空地にも何が立つのか分かったものではない。

つまり、今この問題をきちんと話し合っておかないと、これが悪しき前例となって、すでにマンションだらけのベイタウンに住環境そっちのけのマンション建設だけを積み重ねることになり兼ねない。

千葉県企業庁は平成24年度に解散となる予定である。私たちが地代を払っている大家が誰に変わるのかも不明であるが、少なくとも「企業庁がこの街を売り急いでいる」のは間違いない。その結果、公共施設の拡充はどこかに追いやりられ、「大型マンション建設」の林立とベイタウンの「団地化」が進展しているの

ある。

H7街区以外にもミラリオ前の空地に150戸のマンションが、福祉介護施設付きのマンションが建つ予定だった中学校周辺の空地には「ただの450戸の大規模マンション」が建設される予定で、H7街区と合わせるとベイタウンの中だけで1100戸の新規マンション計画がある。

さらに、モーターショーなどの開催時に臨時駐車場になる、京葉線山側の本来は「文教地区」である空地にも企業庁は4000戸のマンション建設を計画している。なりふり構わないマンション計画の乱立ぶりである。「幕張ベイタウン」というブランドはマンション市況が低迷する中、まだかろうじて売れるブランドなのである。ブランド力が落ちる前に売ってしまおうという腹づもりだろうか。これでは住民の生活はたまったものではない。「住民との信頼」はどこに行ったのか。

6月15日の説明会ではこのような計画変更に対しても意見が出されたが、企業庁側は「ルールにのっとった手続きさえ経ていけば本来の計画から変更となっても何ら問題はない」という見解である。

ベイタウンの地価現状に対する認識もずいぶん甘く、「皆様のマンションは千葉県の中でも良好な価格を維持できており……」と発言している始末である。

ベイタウンは現在の約8200戸に、今後の建設予定1100戸、さらに文教地区の4000戸のマンションを加えた日本でも有数の大団地街を誇る地域に変身を遂げることになる。

これらの計画に関しては、千葉県企業庁による説明会が8月24日午後6:00からベイタウン・コアで予定されている。この説明会には千葉市および市教委からも担当者が出席する。すでに中学校の環境悪化を心配したお母さんたちの署名集めもはじまろうとしている。24日の説明会にはこぞって参加し、納得のいく説明を求めよう。

もしかしたらこれは企業庁に直接物申すことができる最後のチャンスかも知れないし、ベイタウン住民の関心が低ければ、企業庁は自分たちの計画をやりたいうに進めていくに違いない。

8/24 (日) 18:00 コアに行こう

中学校問題と土地利用に関する住民説明会

日時：平成20年8月24日 午後6:00～

場所：ベイタウン・コア ホール

出席：千葉県企業庁 幕張新都心整備課長

千葉市、千葉市教育委員会

住民協議会準備会 速報

7月20日(日)午後、第3回の住民協議会準備会が開催され、各番街の管理組合からの代表者を始め、数多くのペイタウン住民が参加して熱い議論が交わされた。今回の主な議題は、住民協議会設立作業部会が多くの会合を重ねて事前準備してきた住民協議会の規約案の検討であったが、規約案の中身の議論以前に、冒頭で「自治会連合会との住み分けを分かりやすくしてほしい」「管理組合が会員ならば、管理組合連合会的な意味付けなのではないか?」「名称が不適当。『管理運営協議会』もしくは『街づくり運営協議会』などが妥当なのではないか?」といった、この会のそもそもの設立の目的や存在意義に関する質問や指摘が多数出された。

これは、規約案上で活動内容のひとつとして挙げられた「幕張ペイタウン住民等関係者の意向集約」や、「関係官庁、住宅事業者、幕張ペイタウン内の各組織及び各街区の管理会社等との協議及び連絡・調整」という住民代表としての位置付けと、そもそもの設立目的であった「街全体としての資産管理(平成24年度末までの千葉県企業庁から千葉市への移管問題に端を発したペイタウン全体のタウンマネジメント)」を担う役割との両方を欲張った結果生じた混乱であると思われる。今までは、前者の役割を、唯一の住民横断組織である『自治会連合会』が担ってきたが、未だ組

織率が約50%であること(特に、賃貸街区の加盟なし)と、各街区の建物そのもの(ハードウェア)とは直接的に利害関係がない(所有者の声を代表していない)ことから、後者としての役割を担うには不足すると考えられている。

会合では、これら二つのレベルの話を一気に(一緒に)議論するのではなく、まずは管理組合どうしの横串組織が必要であるので、それを組織すること、それからもうひとつ上のレベルでペイタウンの利害関係者(自治会連合会、管理組合の連合会、住宅事業者、UR機構、県住宅供給公社、商店会、など)の声をまとめる組織としてこの場(この時点での仮称では『住民協議会』。以後単に『協議会』と表記することとする)を議論する必要があるのではないかということが大勢の意見だった。

全般に、企業庁が音頭をとって昨年度実施された『幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会』で設立の必要性が議論され、そのペースで事を急いだ感のあった『協議会』設立の動きであったが、昨年の秋実施された住民アンケートで移管協議そのものを知らない/ほとんど知らない住民が回答者の85%であったことも鑑み、もう一度腰を据え直してじっくり議論し、多くの住民に事実を伝え、意見を吸い上げながら事を進める必

要がありそうだ(一方では、「ゴミ輸送システム問題など、時間が限られている。実際に管理の質も下がっているため、早急に対応を進める必要がある」という声も出ていた)。

会合は、この場とは別に管理組合の連合会の立ち上げの場を設定することと、次回の会合に向けてさらに設立作業部会で当日指摘された問題点・課題等の整理と、協議会設立に向けてのプログラム作りをすることまでを決めて解散した。次回の設立作業部会は、8月10日(日)17時から開催される。【板東】

ペイタウンの未利用地の活用について

7/16(水)に行われた、企業庁、千葉市、住宅事業者、住民代表が出席しての『幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会』において、企業庁からペイタウンのリザーブ用地(現在5カ所)の利用計画について報告が行われた。そのうち、旧「ビクターセンター用地」とされていたクリーンセンター脇(消防署との間)の土地については、既に医療法人社団誠仁会(みはま病院)が落札し、5階建て・泌尿器科中心・人工透析102床・病床50床の病院を3年以内に建築予定であることが伝えられた。先月号の本誌記事でお伝えしたH7街区の問題といい、土地利用用途の変更や、当初説明のなかった建物の建設といった近隣に大きな影響を及ぼす決定を、住民に事前説明することなく、決定後に通知する企業庁の姿勢には、記者も一住民として疑問と憤りを感じる。

打瀬中アラカルト (6) ～バスケットボール部編～

チャンスの神様というのがいる。少し小太りである。なぜか裸である。前髪はふさふさしているが後ろはツルッパゲである。この神様は一定の速度で、向こうから走ってくる。てくてくてく走ってくる。汗もかかずに走ってくる。極度の緊張や試合に夢中になりすぎるとチャンスの神様がやって来たことに気付かない。通り過ぎたとき、「あっ」と思って神様を追いかけても、つかめない。後ろがツルッパゲだからつかめない。チャンスの神様をつかむには、神様が来たらつかむぞ、と準備してなくてはならない。向こうからやってくるのを待って「えいやっ!」と前髪をつかまなくてはならない。チャンスとはそういうものである。

チャンスに強いバスケットボール部が総体を迎えた。数ある大会の中でも総体は特別である。負けた時点で3年生は引退するからだ。

時は7月19日、会場・磯辺高においてまずは女子の試合、土気中戦である。4番中西を中心とし、藤田・島野の連続3ポイントシュート、山口・松浦がレイアップを決め、根本がフリースローを確実に決めた。得点はどんどん離れ74対31で快勝。続く男子は強豪小中台中との屈指の好カード。小中台MBC・リトルファイブ時代からの長い宿敵である。試合は6番金子の初シュートから始まった。平均身長が大幅に上回る相手に手こずりながらも、森川・小川らがルーズボールを巧みに奪って反撃。184cmの相手センターと対等にリバウンドを取り合う政本と石田。21対28と僅差でリードされてハーフタイムに入った。対馬・北島両コーチの檄が飛ぶ。河野コーチが冷静に展開を分析する。佐久間監督は湘北高校の安西先生(※参考文献:井上雄彦(1998)「スラムダンク」集英社)のようにお腹をタプタプさせて戦術を確認する。しかし、空中戦を制されなかなか追いつけない。やがて無情のホイッスルが鳴った。生浜中戦で死力を尽くした女子も惜敗し、バスケ部の総体は終わった。

「入学してから2年と4ヶ月、バスケ部に限らず、つらい練習によくぞ耐えた各部の3年生たちよ。君たちの流した涙こそクリスタルのメダルなのだ。この日までが

んばったことこそ真実(まこと)の勝利なのだ。今、心からエールを送る。ご苦労様でした。」

【打瀬中学校教頭 青木一】



セキレイの子育て奮戦記

ヒナの誕生

6/27の時点でセキレイの巣には5つの卵が産み落とされていて、親鳥はその抱卵を昼間だけやっているという話を書いた。その後卵はどうなっただろう。

記事を書き終わった翌日の6/28の朝、何の気なしに巣を覗くとなんとヒナが生まれていた。3個の卵がかえり、ヒナが3匹ネズミの子どものように羽毛のない裸の状態です。小さな頭に目玉（と言っても目はまだ開いていない）の部分が異様に大きく、実にグロテスクな生き物だ。

しかもヒナは可愛くエサをねだって「ピヨピヨ」と鳴くものだと思っていたが、このヒナは鳴かない。親鳥が居ないスキにアミドを開けてみると、音に気づいて口を開け

て動いていたが、エサではないと知るとすぐに3匹とも身をかがめて巣の中にうずくまってしまった。それからは少し音を立てても頭を上げなくなった。ひっそりと静かにしているのが今は安全だということの本能的に知っているのかようだった。

しばらくすると親鳥が戻ってきて3匹のヒナに口移しでエサをやり、残っている2個の卵の抱卵もはじめた。ヒナが生まれてからは親鳥は夜も外に出ず、巣に残って残る卵とヒナを抱き、朝早くにエサをとりに出かけるという生活になった。初夏の蒸し暑い時期で人間にはイヤな季節だが、裸で生まれたヒナ鳥にとっては寒さで死ぬことはないだろうし、エサとなる昆虫やクモも活発に動くこの時期は野鳥が子育てをするには絶好の季節だ。

事件発生

7/7のこと。ちょっとした事件があった。なんとかして子育てしている姿をカメラに収めたいと思い、部屋の中からアミド越しの撮影をあきらめて、ベランダに出て、外側から巣を撮影しようとした。親は巣に入るにはベランダを通らなければならないので、親に見つからずに身を隠して撮影できないか下見に出たつもりだった。しかしこの頃は親鳥のエサ運びはとても頻繁で、5分も間が開くことはない。ベランダでウロウロしているうちに1羽の親鳥が帰ってきて見つかってしまった。

とたんにけたたましい声で鳴く親鳥。するとそれを聞きつけてすぐにもう1羽もやってきた。そしてなんと僕の回りを飛びながら、威嚇するように大きな声で鳴き始めた。いつもは人間を見るとすぐに逃げ出すセキレイ君だが、子育ての期間はやっぱりちがう。ヒナをねらう蛇やカラスを追い払うように、僕の回りをしきりに飛び回って、大声で威嚇しつづけた。仕方ない、撮影は中止だ。ほうほうの体でベランダから退散した。この記事に鮮明でキレイな写真が載せられないのはこんな事情があるからだ。



卵から生まれたばかりのヒナ（7/1撮影）音がすると親鳥がエサを持ってきたと思って頭を上げて鳴く。



エサを運んできて、巣に近づく前にベランダの手すりに止まりあたりを伺う親鳥（7/7撮影）。

思いがけない巣立ち

7/10の午後セキレイのヒナ5羽は巣立ちしてしまった。いや正確には巣から出て行かざるを得なくなったというところだ。午後、あまり元気がいいので写真を撮ってやろうと少し窓を開けた。するとそれまでは窓をいじっても頭をひそめて隠れていたヒナが、今日はバタバタと羽ばたきはじめ全部飛び出してしまった。それからはベランダに一時留まっていたが、あわてた僕がベランダからもどしてやろうと近づいたところ、5羽ともベランダからさらに外に飛び出し

てしまった。マンション6階のベランダから必死の猛ダイブだ。飛び方を見ているとけっこうしっかりしている。もう巣立ちも間近というところだったのかもしれない。

しかし、まだ親からエサをもらっている鳥なので、これからバラバラになってしまっは生きていけないかもしれない。どこへ行ったのか外に出てみると、近くの5階の廊下に2羽がいた。しばらくすると更に1羽になり、せめてこれだけでも巣にもどせないと近づいたとたん、またバタバタと勢いよく飛び出し、マンション5階の高さから飛びだした。するとどうだろう。すぐに親鳥が飛んでいるヒナのそばに来て一緒に飛び始め、最後には9番街近くの歩道に2羽で舞い降りた。

なんと馬鹿なことをしてしまった



親鳥（左端）からエサをもらう5羽のヒナ鳥（7/9撮影）。この頃になると大きさも親鳥とそう違わない。

と反省しきりだ。せめて親鳥のそばで5羽ともが新しい居場所を見つけて巣立ちができる大きさになるまで無事育てて欲しいと願うのみである。

翌日、気になってあちこち10番街の周りを歩いてみた。すると、1丁目公園のスズカケの木で鳴いているセキレイの音がする。「ツイー ツイー」と良く通る大きな声で何度も鳴いている。しばらく聞いていると、小さな声でその声に反応するように鳴き返す声が少し離れたところで聞こえた。ヒナ鳥のようだ。

勝手な想像だが、野生ではヘビや他の天敵に追われて、十分な大きさになる前に巣から出てしまうヒナも居るだろう。巣立ち間近の大きさなら親の声が聞こえるくらいの位置にいて、しばらくエサをもらいながら成長するのもかもしれない。

セキレイの巣を何度もベランダで作られた方の話だと、セキレイは毎年同じところに巣を作るという。我が家に巣を作ったセキレイよ、来年は邪魔せずにじっくり子育てさせるから来年も来てくれよ。

【松村】

素顔の天才

黒川侑ヴァイオリン・リサイタル裏話

7/12(土)午後2:00。その青年は現れた。ジーンズ姿にスニーカー。名器ストラディバリウスを肩から軽く引っさげて。ヴァイオリンリスト「黒川侑」君のコア到着だ。日本ヴァイオリン界の至宝と言われ、天才と騒がれる青年との対面。正直もっと重い、あるいは何かセンセーショナルなものを期待していた僕には、この出会いは少し拍子抜けするものだった。

だが、そんな思いは彼がヴァイオリンを手にし、調弦(チューニング)を始めた瞬間どこかへ行ってしまった。違う。たしかに違う。ほんの数メートル先で彼の作る音は柔らかく、波が広くゆっくりと広がるような音だった。「ようこそ黒川君。我がコア音楽ホールへ」

「黒川君をベイトウンへ」という声は、彼が若干16才で「全日本音楽コンクール」に優勝した直後から寄せられていた。だがそんなことが可能なのだろうか。こちらは200人ほどのマイナーな小ホール。しかしこちらにも他の大ホールにはない強みがある。市民が自主運営するホール。熱心で室の高い聴衆。日本に数台しかないピアノ、ファツィオリのフルコン。熱意をもって話せば来てくれるかも知れない。しかし彼はどこに住んでいるのか連絡先も分からない。

彼はまだ高校生だ。学校を通せばどうか。インターネットで調べると高校はすぐ分かった。関西の名門私立学園だった。いろいろ考えた末、意を決して学長に電話することにした。熱意で話せば何とかなるだろう。学長室秘書の女性としばらく話す。黒川君はしばらくお休みとのこと。学校ではコンサートの幹旋はしない。個人情報なので連絡先は教えられないという。「それならこちらでお願いの文章を書くので、黒川君が学校に来たときに渡

していただけませんか」。それで希望をつないだ。早速黒川君のご両親と学長への取り次ぎ依頼の手紙を書いてFAXした。

返事は来るだろうか。来なければ仕方がない、あきらめよう。1週間ほどはなんだか初めてラヴレターを書いた高校生のような気分だった。50才を過ぎてこんな気分を味わえただけでもいいか……。あきらめかけていた頃、黒川君のご母堂から快諾のメールをいただいた。誠意は通じた。

黒川君との出演交渉は最初彼のお母さんとメールで進めていたが、ある日黒川君本人からメールが入った。コアのホームページで紹介している彼のプロフィールは子どものときの受賞歴ばかりで、全日本の受賞歴が入っていないというものだった。「最初の大人のコンクールですから」と言われ、すぐにページの内容を訂正した。それにしても18才にしてははっきりと自分の希望を伝える子だ。コンサートのことで直接本人とこんな話をするのは余りない。サプライズはその後もあった。ある日電話を取ると「黒川です」と電話主。コンサートのポスターを送って欲しいという用件を聞いてから思い切って尋ねてみた。「君が黒川侑君 ご本人なの?」「そうです。こんなことがあって、気さくな天才ヴァイオリニストとはすっかりうち解

けて話せるようになった。

コンサートではインタビューの時間を取る予定だったのでリハーサルの合間に打ち合わせをした。時間とプログラムの流れを考えインタビューは中止になったが、天才ヴァイオリニスト誕生の秘話(?)を聞くことができた。黒川君は5才でヴァイオリンをはじめたことになっている。実は彼はヴァイオリンの前にピアノを習っていた。ピアノを弾くお母さんの薦めによるものだ。だが彼はいやがっていっこうにピアノの練習をしない。仕方なくヴァイオリンを触らせると楽しく楽器を触るようになったという。当時習っていた先生も彼が楽しく練習できるように注意し、天才ヴァイオリニストを育てるなどの考えはなかったという。楽しいのが一番だそうだ。

コンサートは大成功だった。アンコールが終わり出て来た人たちの驚きと満身に満ちた顔がそのことを物語っていた。

黒川君とは近い将来またコア・ホールで演奏してもらうことを約して分かれた。今度会うときもストラディバリウスは肩から下げられているのだろうか。【松村】



今月は「タチアオイ」のタネをプレゼント

先月号で「ナノハナ」のタネを差し上げますと記事にしたところ、予想を超える沢山の方が公民館の受付に来られ、タネを持って行かれました。ありがとうございました。

今月も公民館のご協力をいただき、「タチアオイ」のタネをプレゼントします。タチアオイは写真のように高さ2mにもなる大きな植物です。大きな花を茎に沢山つけ、とても見栄えがします。とても丈夫な花でベイトウンの強風にも強く、水やりの必要もありません。秋にタネを蒔けば次の春には花を咲かせます。

ご希望の方は公民館の受付で「タチアオイのタネ」と言って頂ければお渡しします。先着順ですので、なくなったときはまた次の機会をお待ちください。



8月のコア・イベント

8月のわくわくお話し会は夏休みでおやすみします。

8/23
(土)

寺子屋工作ランド
「セミしぐれ」(よく鳴くセミをつくります)

時間: 9:30 ~

場所: ベイトウン・コア 工芸室

持ってくるもの: カッターナイフ、木工ボンド、はさみ、鉛筆、参加費: 50円(保険料)

8/24
(日)

第65回ファツィオリの会

時間: 9:30 ~ 11:30

場所: ベイトウン・コア 音楽ホール

月に一度、コアにあるフルコンサートピアノ「ファツィオリ」を弾くことが出来ます。ピアノ以外の楽器でも歌でも大歓迎です。ご希望で非公開も受け付けています。どうぞお申し込み下さい。

申し込み締め切り: 8月17日(日)

連絡先: 安永 TEL & FAX 271-5260

いっぱいになり次第締め切らせて頂きます。お早めどうぞ。